

令和3(2021)年度 かわさき市民アンケート概要版

調査目的等

調査目的	市民の定住状況、市政に対する評価と要望などの継続的に行ってきた調査に加え、いくつかのテーマについて、市民の生活意識や行政に対する意識を調査し、市政運営や政策立案の参考資料とすることを目的に実施。
調査経緯	昭和 50（1975）年度から毎年 1 回実施していた「市民意識実態調査」を、より多くのテーマ、より多くの対象に調査するために、調査回数を年 2 回に拡充し、名称を変更して平成 18 年（2006）年度から実施することとしたもの。
調査地域	川崎市全域
調査対象	川崎市在住の満 18 歳以上の個人

調査方法等

	第 1 回アンケート	第 2 回アンケート
調査方法	インターネット調査	郵送調査
標本抽出	インターネットモニター登録者から抽出	住民基本台帳からの層化二段無作為抽出
標本数	1, 500 標本回収まで	3, 000 標本
有効回収数	1, 500	1, 600
有効回収率		53.3%
調査期間	令和3年9月3日（金）から 9月13日（月）まで	令和3年11月17日（水）から 12月24日（金）まで
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> ・川崎市の職員について ・文化芸術活動について ・公共施設について ・新型コロナウイルス感染症について 	<ul style="list-style-type: none"> ・定住状況について ・生活環境の評価について ・関心ごとと行動範囲について ・市政に対する評価と要望について ・災害に対する備えについて ・川崎市の広報（市政だより）について ・新型コロナウイルス感染症について

※表中の「百分率」は小数点第 2 位を四捨五入しているため、数値の合計が 100 にならない場合があります。
 ※当冊子は、調査結果の一部を抜粋したものです。各設問の番号は、調査票と同じ設問番号を記載しています。
 ※インターネット調査は、対象者を母集団から無作為抽出しているものではないため、回答者の属性に偏りが出ます。回答傾向から課題を発見するプリテストに適した調査方法です。

1 川崎市の職員について

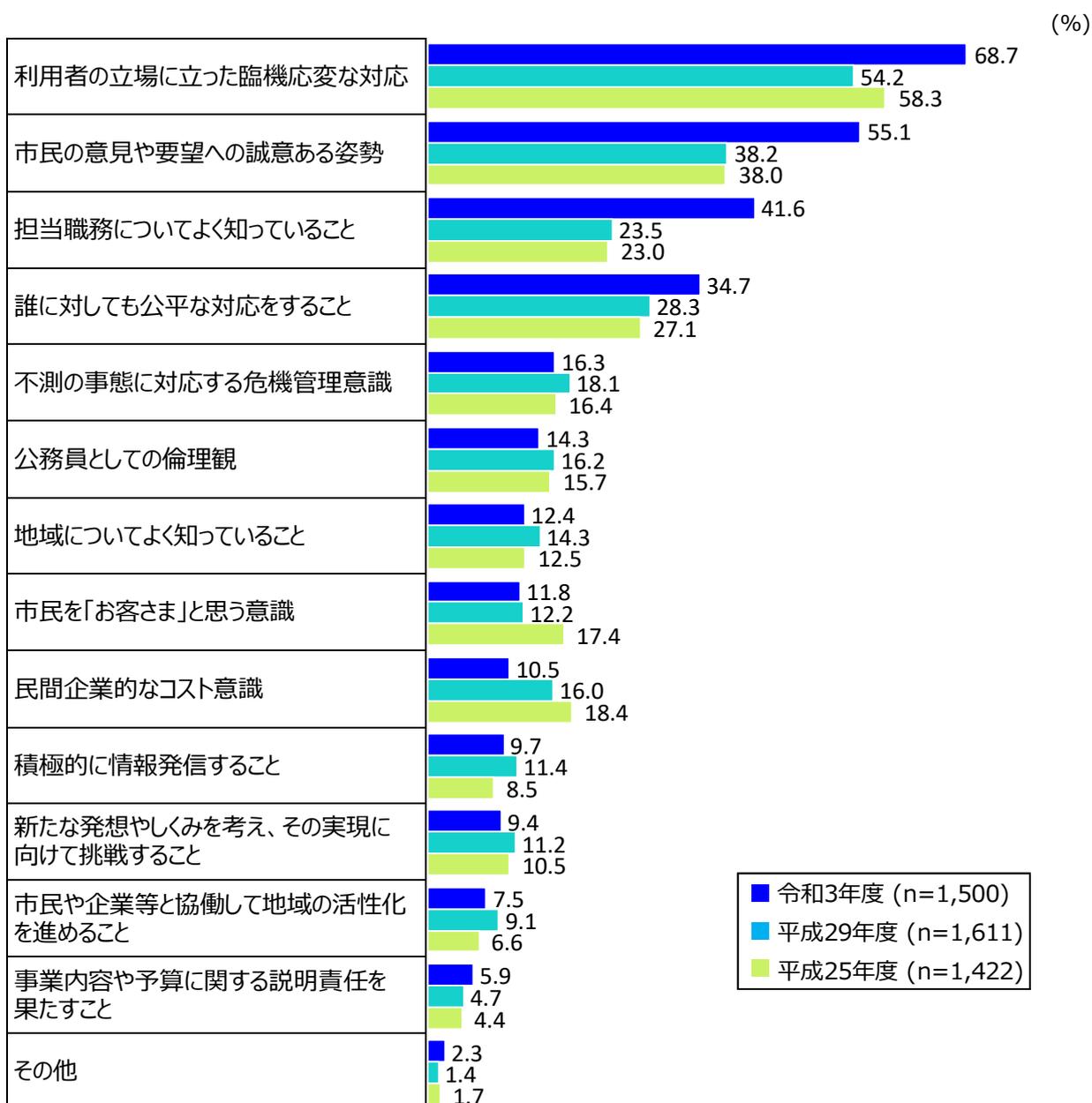
1 市職員に求めるものとして、特に重要であると思うもの

Q 5. あなたが、川崎市の職員に求めるものとして、特に重要であると思うものは何ですか。

- ①最も重要であると思うもの
- ②2番目に重要であると思うもの
- ③3番目に重要であると思うもの

「①最も重要であると思うもの」～「③3番目に重要であると思うもの」の合計を、同じ設問を順不同で3つまでの複数回答で聴取した平成25・29年度調査（郵送調査）と比較すると、第1位から第4位までの項目はいずれも今回の調査の方が5ポイント以上高くなっている。

【図表 1】市職員に求めるものとして、特に重要であると思うもの（①～③の合計）
（過去調査との比較）



※平成25・29年度は順不同で3つまでの複数回答で聴取。

2 文化芸術活動について

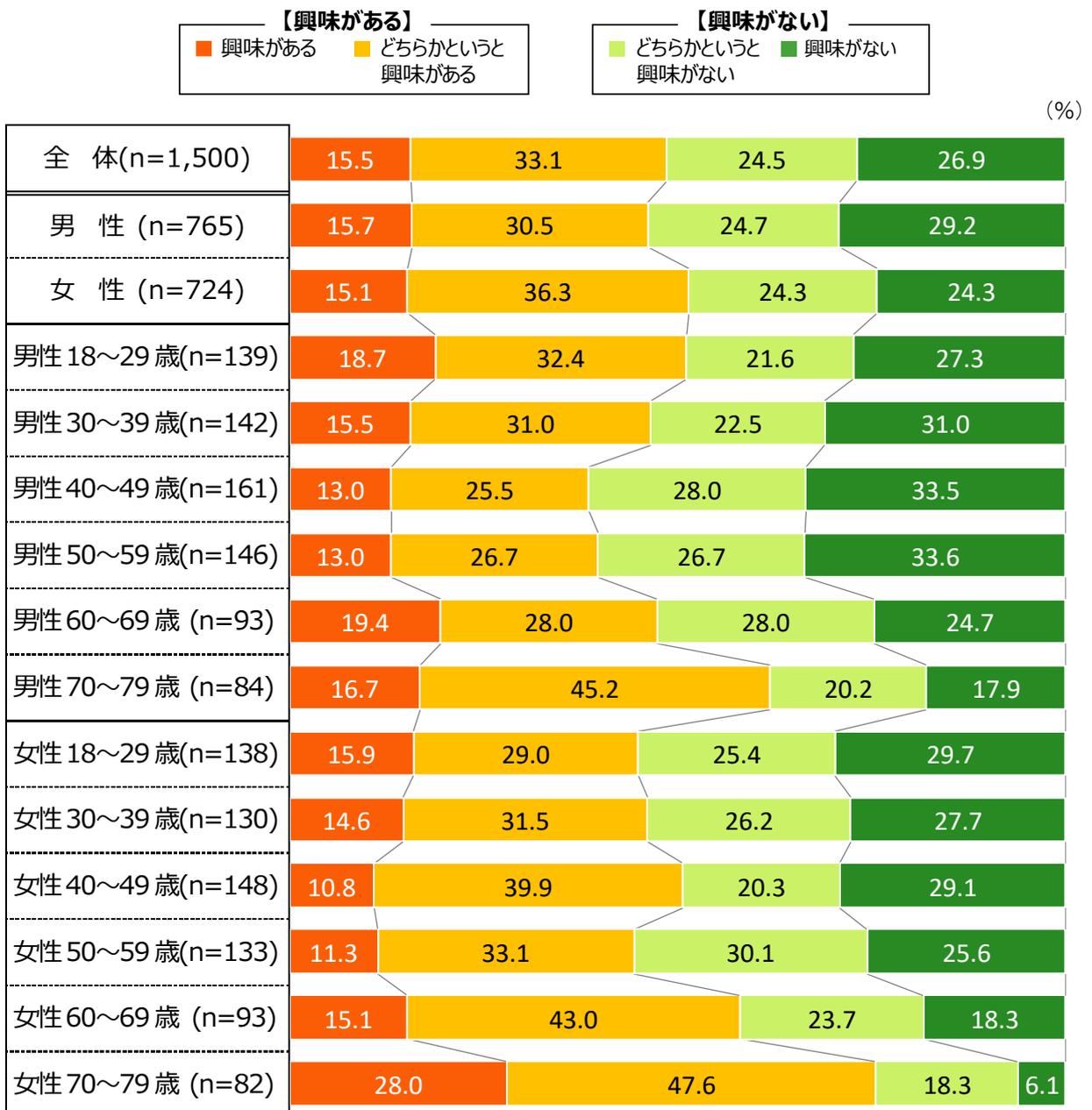
1 文化芸術への興味

Q 8. あなたは「芸術文化活動」に対してどの程度興味がありますか。

「興味がある」と「どちらかというに興味がある」を合計した【興味がある】は 48.6%、「どちらかというに興味がない」と「興味がない」を合計した【興味がない】は 51.4%であった。

性／年齢別に見ると、【興味がある】は男女ともに 70～79 歳で最も多く、特に女性 70～79 歳では 75.6%と 7 割を超えている。一方で、男性 40～49 歳（38.5%）と男性 50～59 歳（39.7%）では 3 割台と、他の性／年齢と比べて低い。

【図表 2】文化芸術への興味（性／年齢別）



2 文化芸術の鑑賞や活動を行うときに重視するポイント

Q12. 文化芸術の鑑賞や活動を行うときに重視するポイントとして、AとBの考え方ではどちらの方があなたのお考えに近いと思われますか。最もあてはまるものを1つ選んでください。

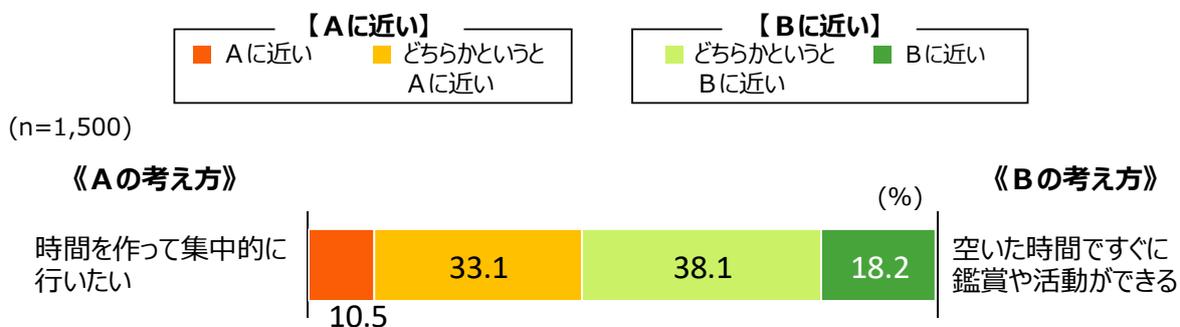
A : 時間を作って集中的に行いたい

B : 空いた時間ですぐに鑑賞や活動ができる

【Bに近い】が 56.3%と、『空いた時間ですぐに鑑賞や活動ができる』という考え方に近いと回答した人の方がやや多かった。

【図表 3】文化芸術の鑑賞や活動を行うときに重視するポイント

(A : 時間を作って集中的に行いたい
B : 空いた時間ですぐに鑑賞や活動ができる)



3 公共施設について

1 公共施設の適正な配置に関する考え方

Q13. 財政状況や将来の人口構造の変化等を鑑みると、将来的に求められる公共施設の量や質を踏まえつつ、施設のあり方について考えていく必要があります。公共施設の適正な配置について考えるにあたり、AとBの考え方ではどちらの方があなたのお考えに近いと思われますか。最もあてはまるものを1つ選んでください。

A：提供される機能やサービスが変わらない、もしくは低下したとしても、各地域に置かれている施設については、そのままの数を残したい

B：提供される機能やサービスが充実・向上するのであれば、いくつかの施設を1つの施設に集約・統合したほうがよい

【Bに近い】が62.8%と、『提供される機能やサービスが充実・向上するのであれば、いくつかの施設を1つの施設に集約・統合したほうがよい』という考え方に近いと回答した人の方が多かった。

【図表 4】 公共施設の適正な配置に関する考え方

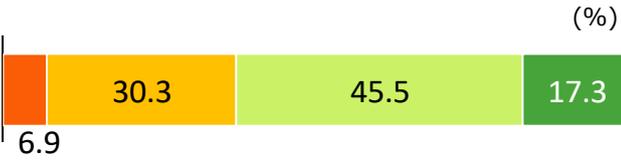
A：提供される機能やサービスが変わらない、もしくは低下したとしても、各地域に置かれている施設については、そのままの数を残したい
 B：提供される機能やサービスが充実・向上するのであれば、いくつかの施設を1つの施設に集約・統合したほうがよい



(n=1,500)

《Aの考え方》

提供される機能やサービスが変わらない、もしくは低下したとしても、各地域に置かれている施設については、そのままの数を残したい



《Bの考え方》

提供される機能やサービスが充実・向上するのであれば、いくつかの施設を1つの施設に集約・統合したほうがよい

2 公共施設の数や面積の削減が必要になった場合の考え方

Q14. 川崎市における将来の人口動向（2030年以降人口減少見込）等を踏まえ、公共施設の数や面積を削減していかなくてはならなくなった場合、あなたはどのような施設について優先的に削減していく必要があると考えますか。

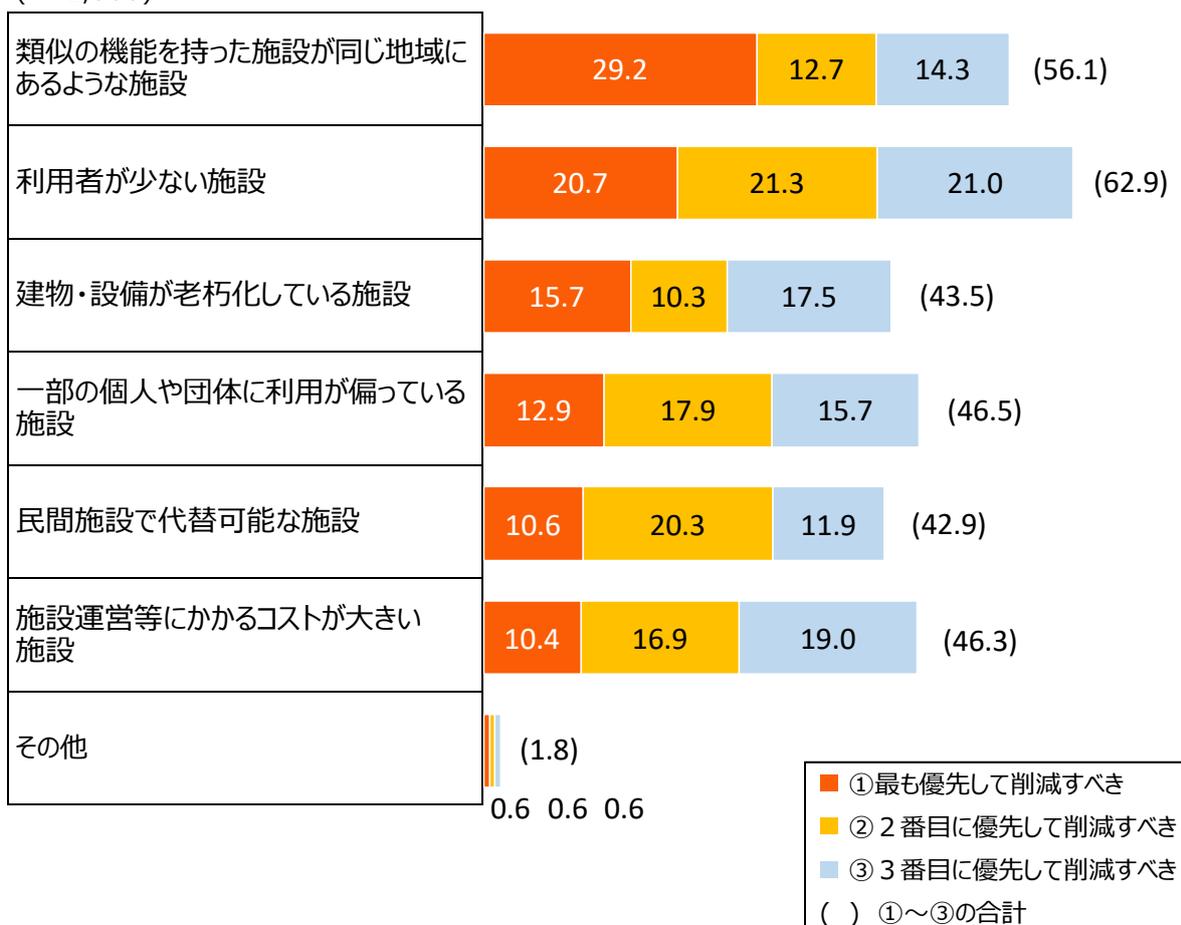
- ①最も優先して削減していく必要があると考えるもの
- ②2番目に優先して削減していく必要があると考えるもの
- ③3番目に優先して削減していく必要があると考えるもの

「①最も優先して削減していく必要があると考えるもの」としては、「類似の機能を持った施設が同じ地域にあるような施設」が29.2%と最も多く、次いで「利用者が少ない施設」(20.7%)、「建物・設備が老朽化している施設」(15.7%)と続いている。また、「①最も優先して削減していく必要があると考えるもの」～「③3番目に優先して削減していく必要があると考えるもの」の合計では、「利用者が少ない施設」が62.9%と最も多く、次いで「類似の機能を持った施設が同じ地域にあるような施設」(56.1%)、「一部の個人や団体に利用が偏っている施設」(46.5%)と続いている。

【図表 5】 公共施設の数や面積の削減が必要になった場合の考え方

(n=1,500)

(%)



4 定住状況について

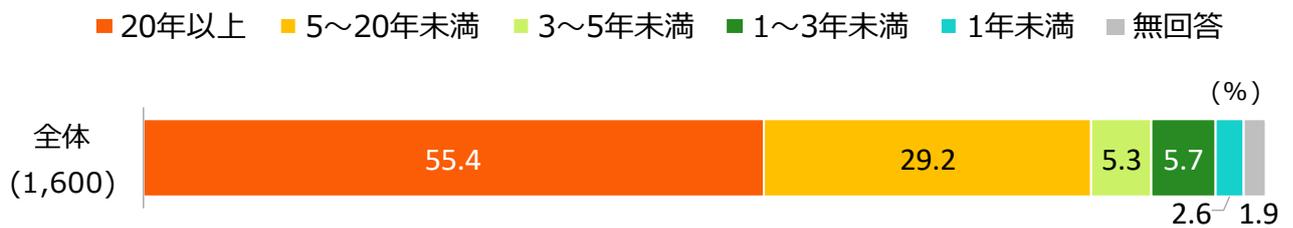
1 居住年数

問1. あなたは、今のところにお住まいになって何年になりますか。

① 川崎市

居住年数「20年以上」は55.4%であり、5年以上の居住者が8割台半ばとなっている。

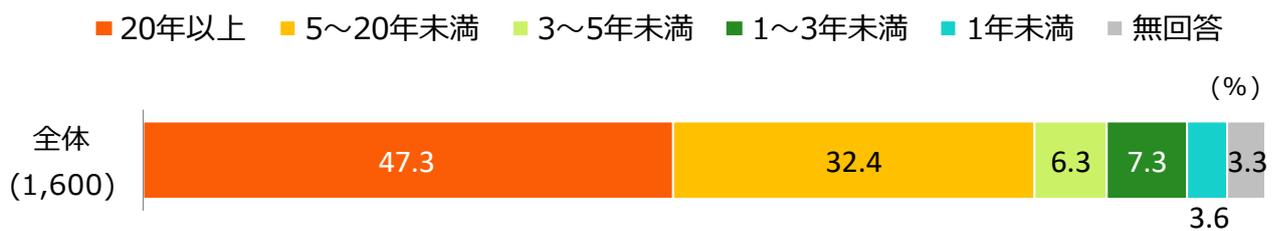
【図表 6】 居住年数（川崎市）



② 現在お住まいの区

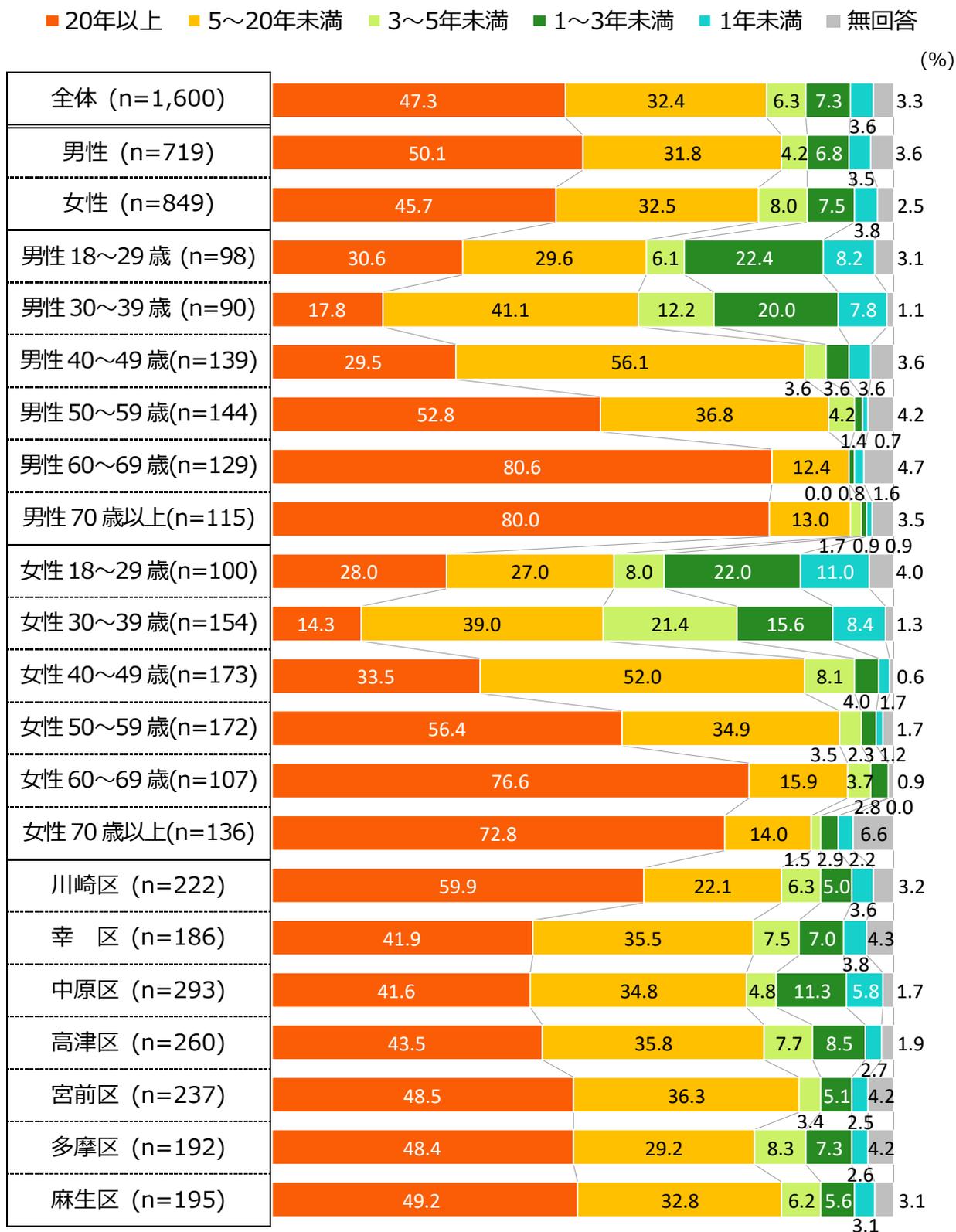
居住年数「20年以上」は47.3%であり、5年以上の居住者が約8割となっている。

【図表 7】 居住年数（現在お住まいの区）



性／年齢別に見ると、男女ともに50歳代以上で「20年以上」が5割を上回っている。
 居住区別では、「20年以上」は川崎区(59.9%)が最も多く、次いで麻生区(49.2%)、宮前区(48.5%)と続き、最も少ないのは中原区(41.6%)であった。

【図表 8】居住年数(現在お住まいの区)
 (性／年齢別・居住区別)

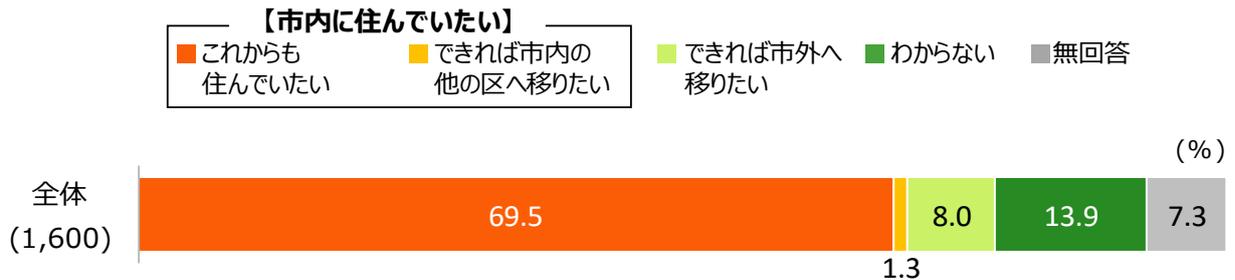


2 定住意向

問2. あなたは、これからも現在の区にお住まいになりたいですか。

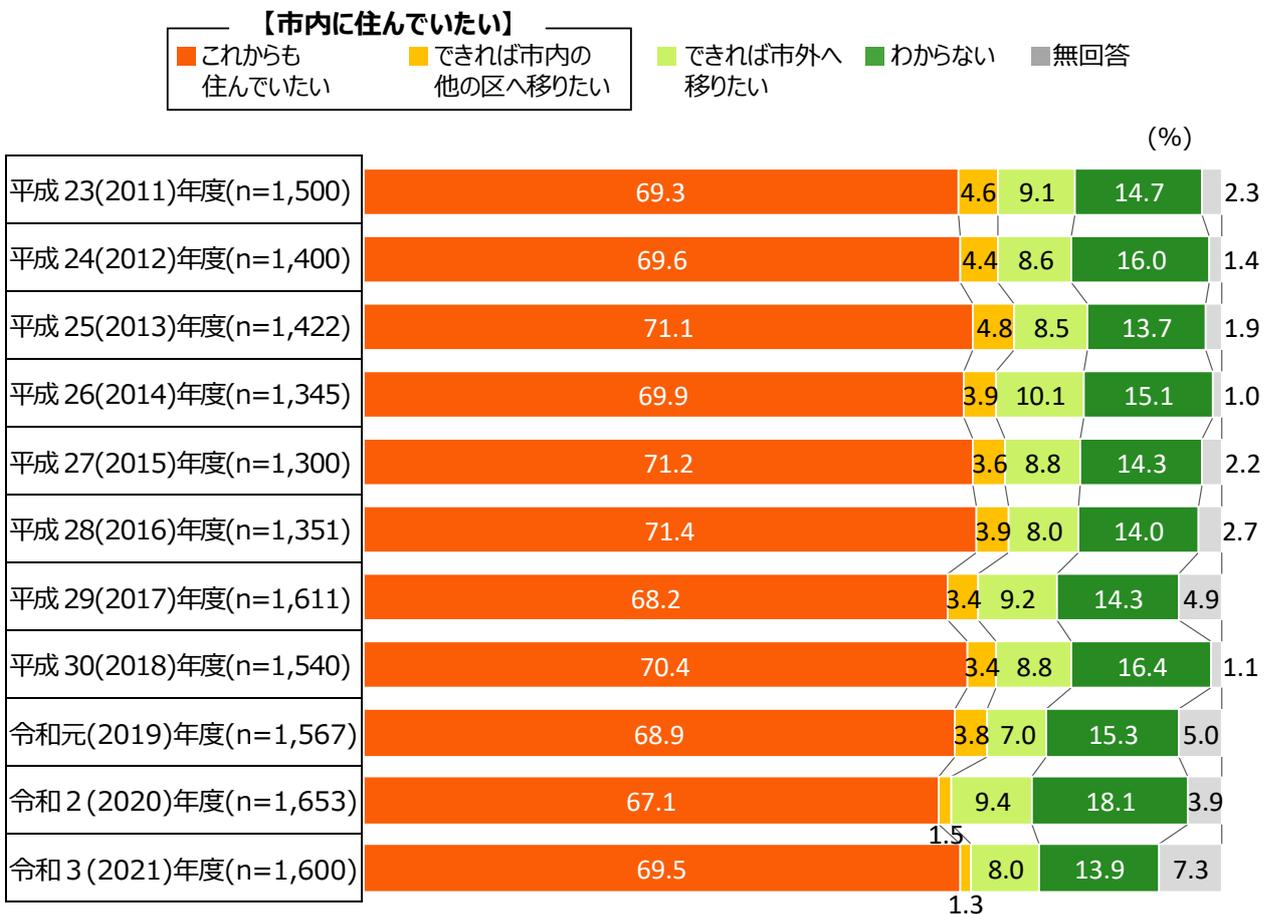
「これからも住んでいたい」(69.5%)と「できれば市内の他の区へ移りたい」(1.3%)を合計した【市内に住んでいたい】は70.8%であった。「できれば市外へ移りたい」は8.0%であった。

【図表 9】定住意向



この10年間において、「これからも住んでいたい」は70%前後で推移しており、平成30(2018)年度以降は減少傾向であったが、今回は昨年度(令和2年度)と比較して2.4ポイント増加した。

【図表 10】定住意向(経年比較)



※昨年度(令和2年度)までの設問文は「これからも今のところにお住まいになりたいですか」で実施。

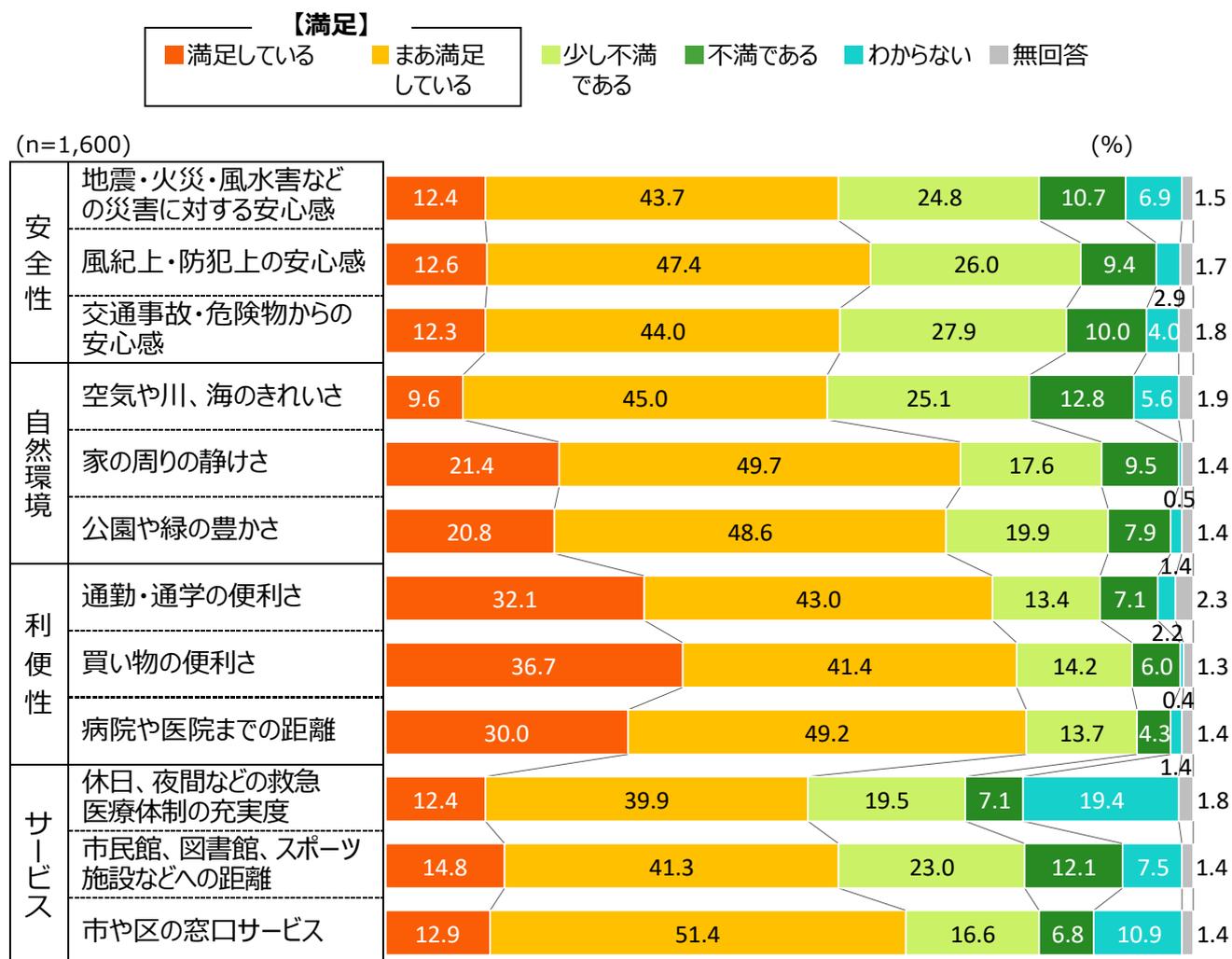
5 生活環境の評価について

1 生活環境の満足度

問5. お住まいの周りの生活環境についてうかがいます。あなたは、次にあげる項目についてどの程度満足していますか。

生活環境の満足度について、「満足している」と「まあ満足している」を合計した【満足】は、『利便性』の項目で高く、「病院や医院までの距離」(79.2%)、「買い物の便利さ」(78.1%)、「通勤・通学の便利さ」(75.1%)で75%を超えている。一方、5割は越えているものの、【満足】が最も低いのは「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」(52.3%)であった。

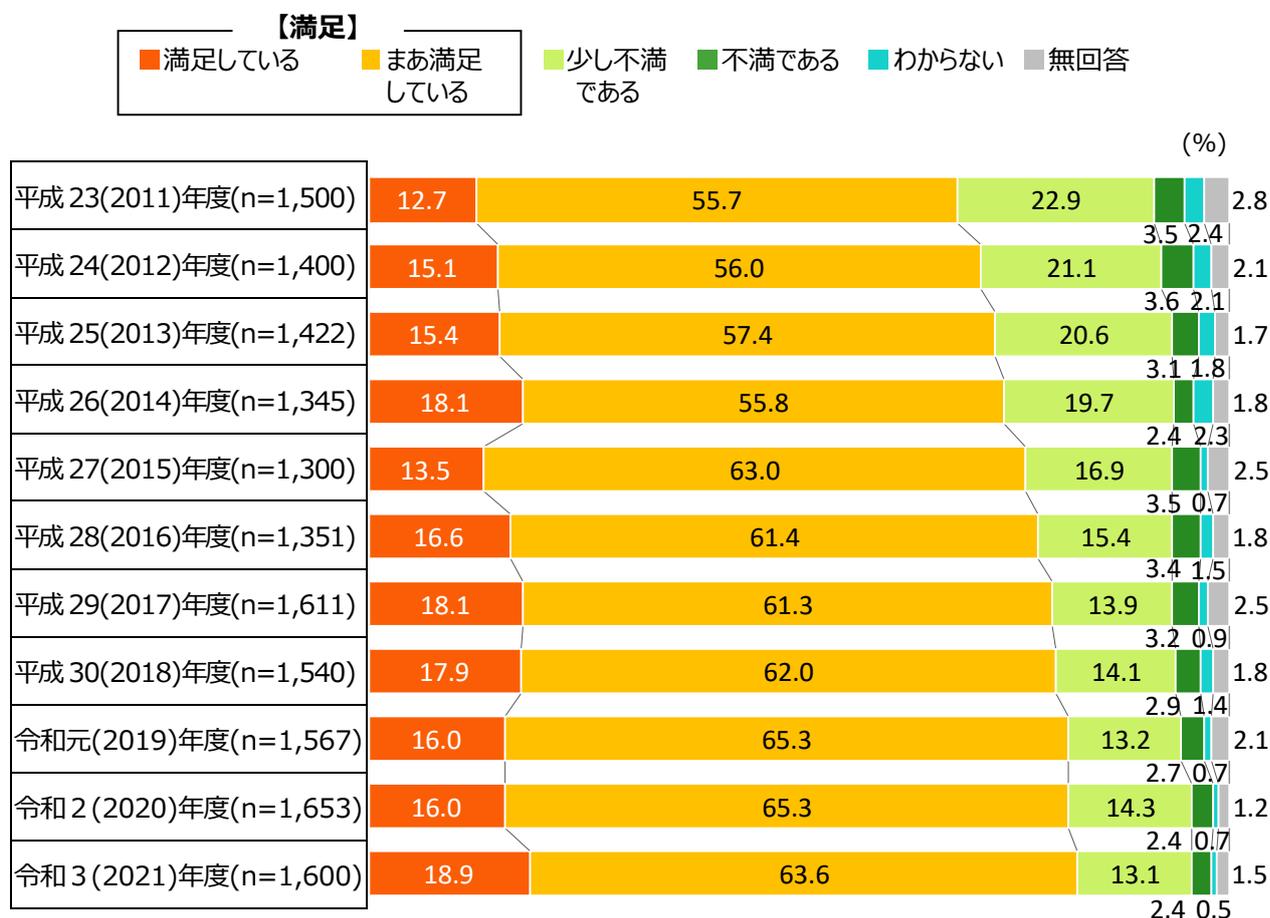
【図表 11】生活環境の満足度



総合的な生活環境の満足度について、【満足】は82.5%となった。

また、過去10年間の調査結果と比較すると、【満足】は、過去10年間増加傾向にあり、5年前（平成28年度）と比較して4.5ポイント、10年前（平成23年度）と比較して14.1ポイントの増加となった。

【図表 12】総合的な生活環境の満足度（経年比較）



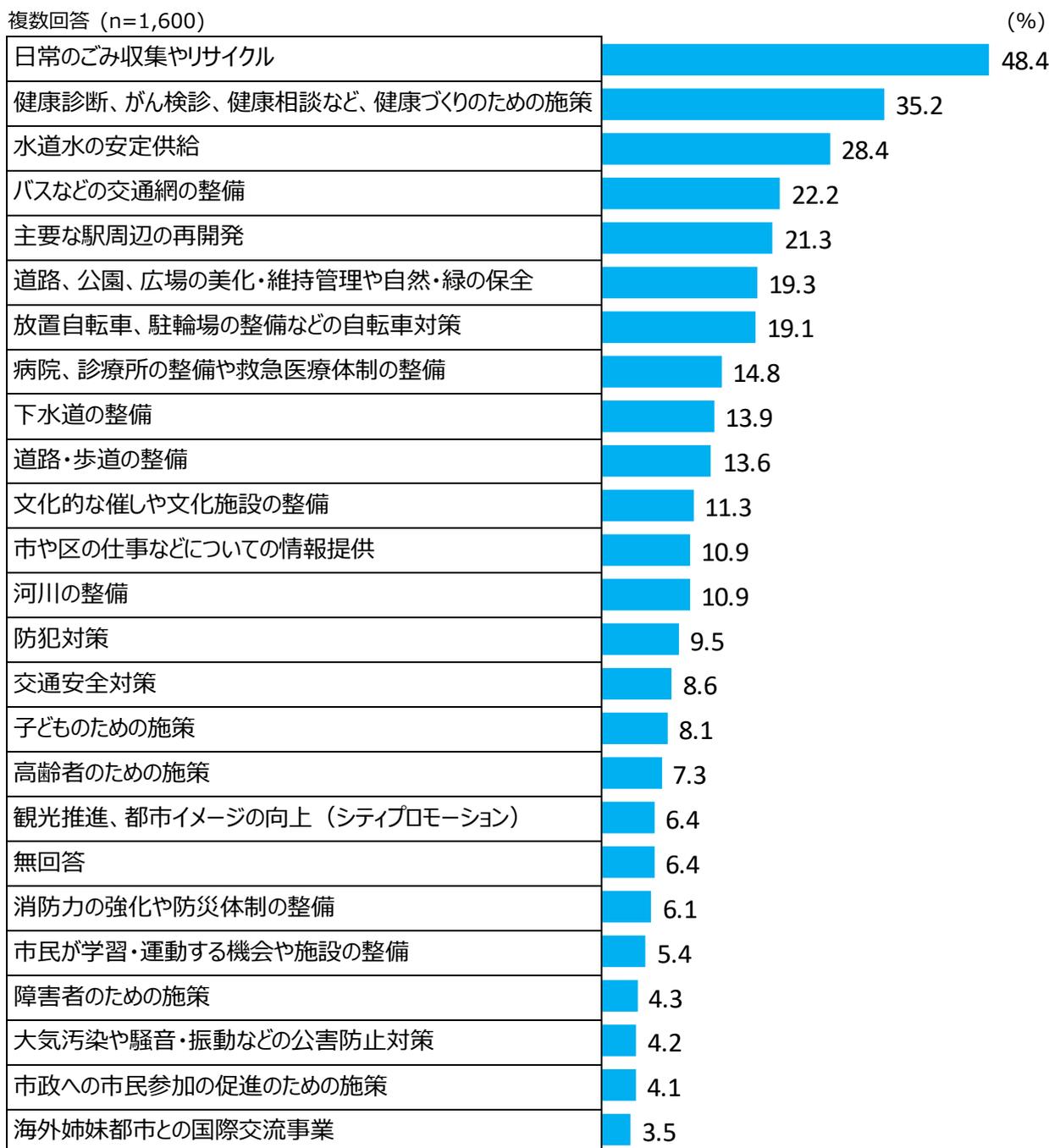
6 市政に対する評価と要望について

1 市政の仕事でよくやっていると思うこと

問9. 川崎市の市政について総合的にうかがいます。あなたは、川崎市が行っている施策や事業の中で、よくやっていると思われるものはどれですか。

「日常のごみ収集やリサイクル」(48.4%)が最も多く、次いで「健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策」(35.2%)、「水道水の安定供給」(28.4%)と続いている。

【図表 13】 市政の仕事でよくやっていると思うこと《上位25項目》(複数回答)



上位3項目について、10年前（平成23年度）、5年前（平成28年度）からの推移を10年前→5年前→今回の順で見ると、「日常のごみ収集やリサイクル」はすべて1位で、「健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策」は3位→4位→2位となっている。「水道水の安定供給」は2位→2位→3位と、順位の前後は多少あるものの傾向に大きな違いは見られない。

【図表 14】 市政の仕事でよくやっていると思うこと《上位25項目》（複数回答）
（経年比較）

	(%)		
	令和3年度 (n=1,600)	平成28年度 (n=1,351)	平成23年度 (n=1,500)
日常のごみ収集やリサイクル	48.4	44.6	51.3
健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策	35.2	24.6	25.1
水道水の安定供給	28.4	27.9	28.5
バスなどの交通網の整備	22.2	25.2	25.1
主要な駅周辺の再開発	21.3	21.2	23.9
道路、公園、広場の美化・維持管理や自然・緑の保全	19.3	20.7	22.0
放置自転車、駐輪場の整備などの自転車対策	19.1	24.2	22.6
病院、診療所の整備や救急医療体制の整備	14.8	16.0	14.3
下水道の整備	13.9	19.6	20.3
道路・歩道の整備	13.6	14.1	14.6
文化的な催しや文化施設の整備	11.3	16.1	19.0
市や区の仕事などについての情報提供	10.9	17.2	17.5
河川の整備	10.9	14.4	15.1
防犯対策	9.5	11.2	12.9
交通安全対策	8.6	11.8	13.4
子どものための施策	8.1	11.0	10.7
高齢者のための施策	7.3	9.5	9.6
観光推進、都市イメージの向上（シティプロモーション）	6.4	9.0	11.6
無回答	6.4	9.3	9.2
消防力の強化や防災体制の整備	6.1	13.9	15.9
市民が学習・運動する機会や施設の整備	5.4	10.9	11.7
障害者のための施策	4.3	8.1	8.7
大気汚染や騒音・振動などの公害防止対策	4.2	8.8	9.5
市政への市民参加の促進のための施策	4.1	11.1	11.8
海外姉妹都市との国際交流事業	3.5	11.7	12.1

※「文化的な催しや文化施設の整備」：平成23年度及び28年度では「映画祭、国際会議など文化的な催しや活動」と「美術館、各種ホールなど文化施設の整備」で実施しており、両年の数値は2項目の平均値

※「道路、公園、広場の美化・維持管理や自然・緑の保全」：平成23年度及び28年度では「道路、公園、広場の美化・清掃」「公園の整備や維持管理」「自然や緑の保全」で実施しており、両年の数値は3項目の平均値

※「観光推進、都市イメージの向上（シティプロモーション）」：平成23年度及び28年度では「観光推進、シティセールス（都市イメージの向上）」で実施

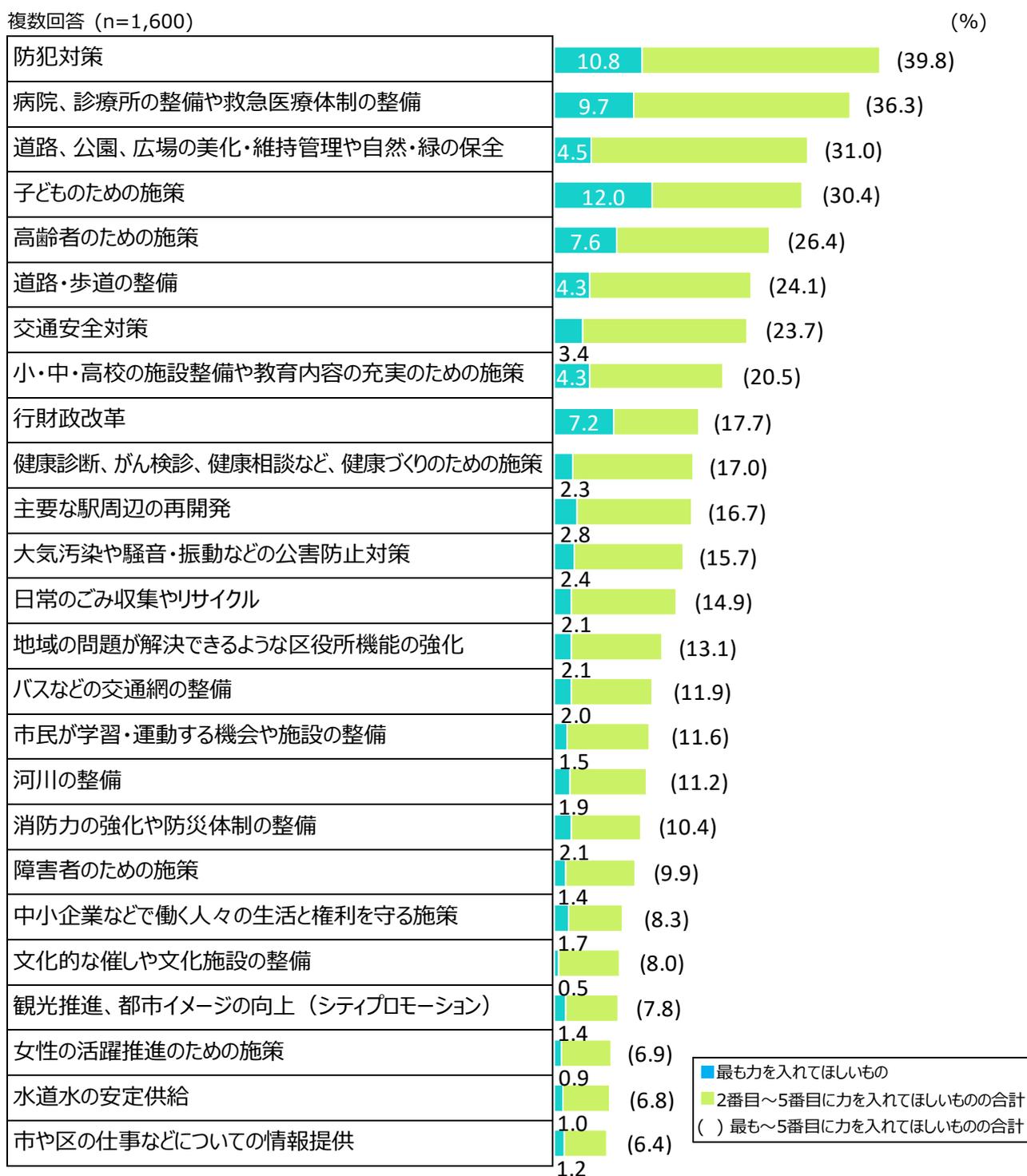
※「市民が学習・運動する機会や施設の整備」：平成23年度及び28年度では「市民が学習する機会や施設の整備」と「スポーツ・レクリエーションの施設整備」で実施しており、両年の数値は2項目の平均値

2 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと

問 10. 問 9 の川崎市が行っている施策や事業の中で、今後特に力を入れてほしいものはどれですか。最も力を入れてほしいものから、順に 5 つ選んでください。

「最も力を入れてほしいもの」～「5 番目に力を入れてほしいもの」の合計では「防犯対策」(39.8%)、「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」(36.3%)、「道路、公園、広場の美化・維持管理や自然・緑の保全」(31.0%) の順であるが、「最も力を入れてほしいもの」だけで見ると、「子どものための施策」(12.0%) が最も多くなっている。

【図表 15】 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと《上位 25 項目》(複数回答)



7 災害に対する備え

1 家庭における備蓄の状況

問 14. 災害時には、備蓄に加え、日常生活で使用しているものも上手く活用していくことが重要となります。家庭での地震への備えに関し、今日現在の状況で、次の①から④の間について、あてはまるものをそれぞれ1つずつ選んでください。

【この問で想定する地震の状況】

- ・大規模な地震であり、お住まいの地域では一部木造家屋の倒壊や火災などが発生。
- ・自宅は無事で生活は可能だが、電気・水道・下水道・ガスが使用できなく、電話もつながりにくい状況

① 何日分の食料を備えていますか。

※冷蔵庫内などにある日常生活で使う分も含めます。

「3日分」(30.5%)が最も多く、次いで「1～2日分」(28.1%)、「4～6日分」(18.8%)と続いている。3日以上備えていると回答した人は58.8%であった。

【図表 16】食料の備蓄状況



② 携帯トイレ（簡易トイレ）を備えていますか。

※1日1人5回使用としてお考えください。

「備えていない」(60.7%)が最も多く、次いで「1～2日分」(19.4%)、「3日分」(10.8%)と続いている。3日以上備えていると回答した人は19.1%であった。

【図表 17】携帯トイレ（簡易トイレ）の備蓄状況

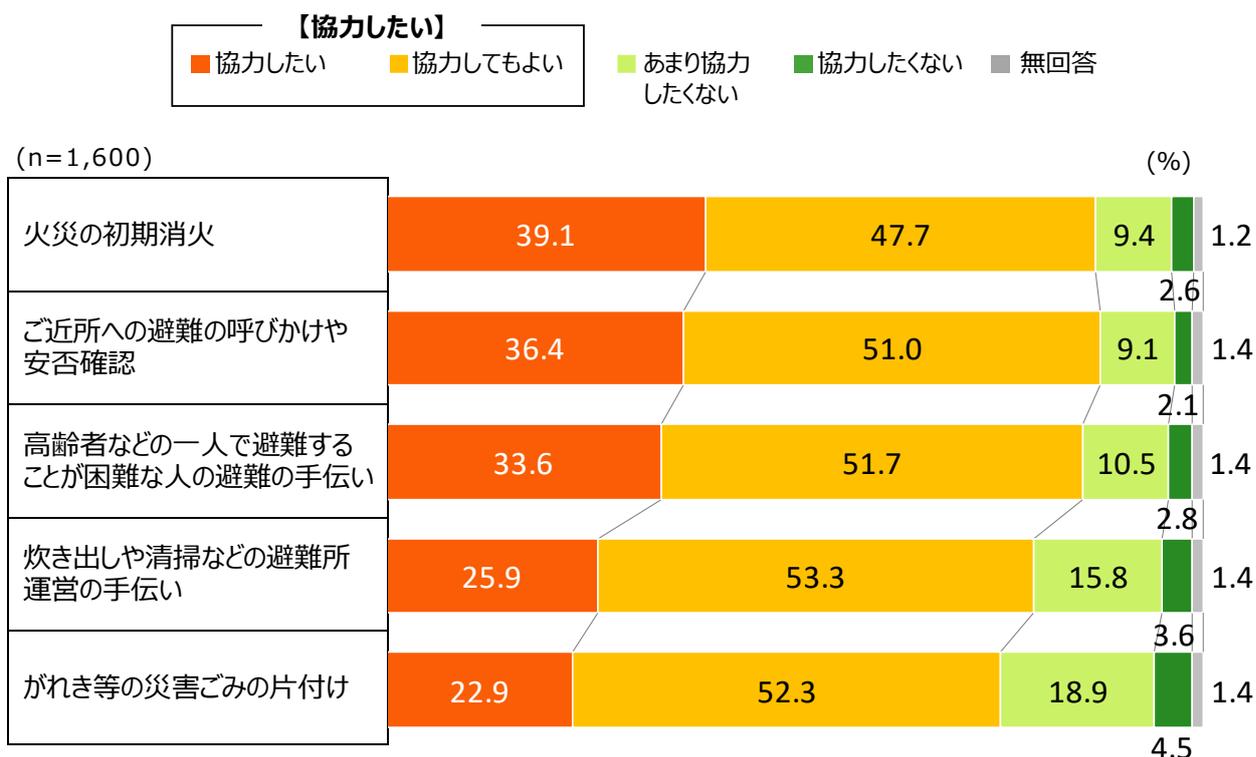


2 災害時に地域で行う活動への協力意向

問 18. 災害時にご自身やご家族が無事な場合に、あなたは地域で行う活動にどの程度協力したいと考えますか。それぞれの項目ごとにあてはまるものを1つずつ選んでください。

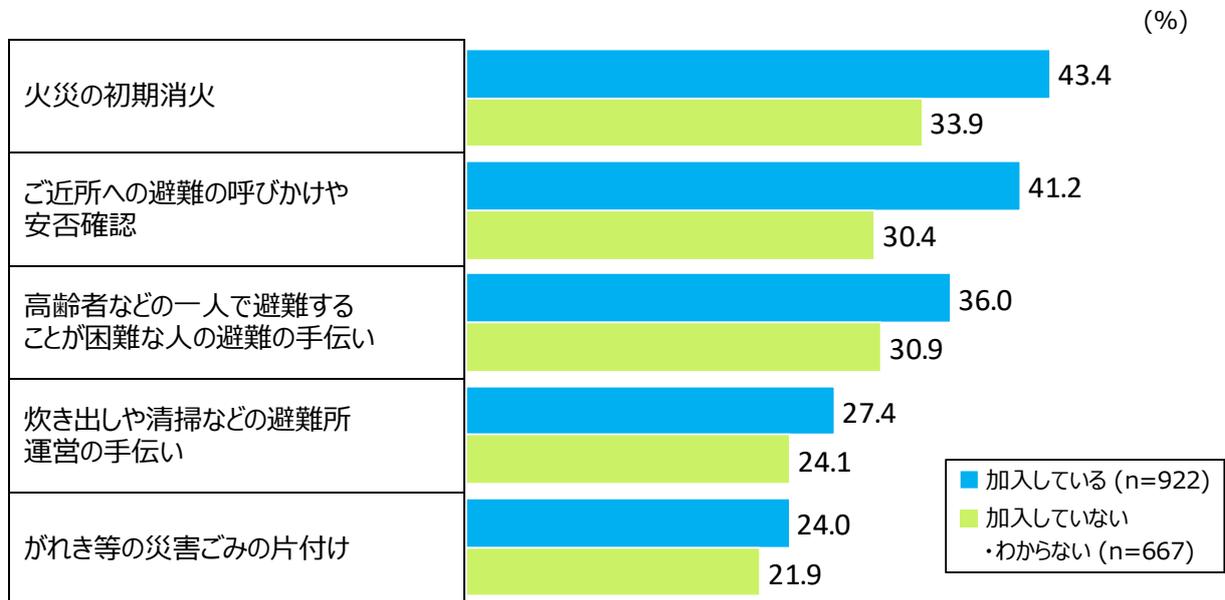
「協力したい」と「協力してもよい」を合計した【協力したい】は全ての項目において7割を上回っており、「火災の初期消火」(86.8%)と「ご近所への避難の呼びかけや安否確認」(87.4%)、「高齢者などの一人で避難することが困難な人の避難の手伝い」(85.3%)の3項目は85%前後となっている。

(図表 18) 災害時に地域で行う活動への協力意向



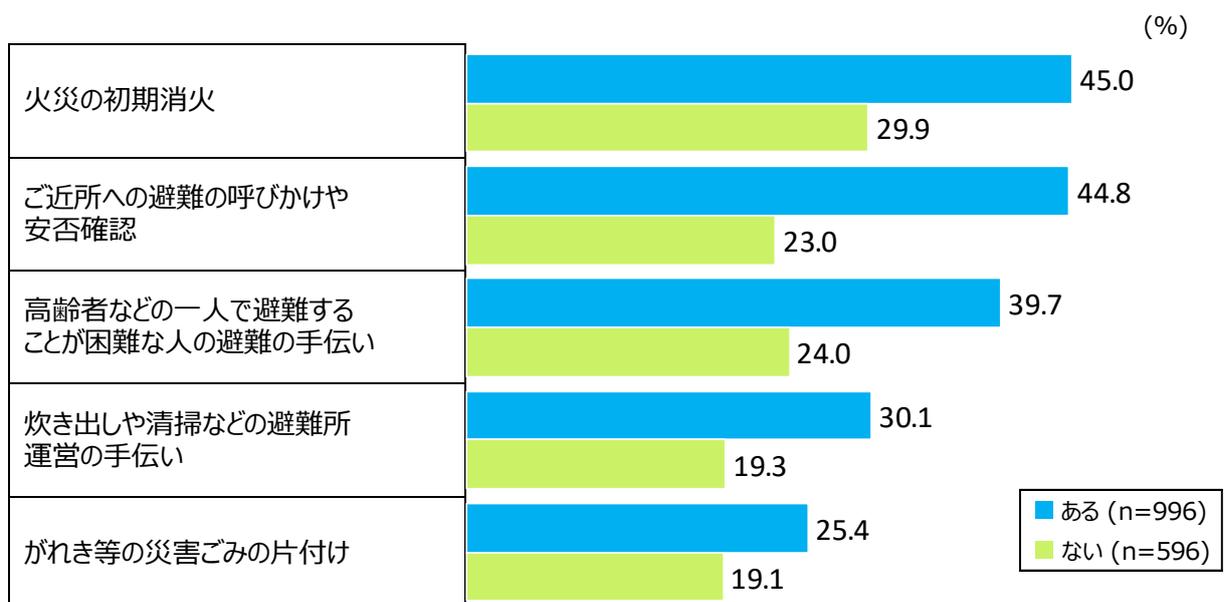
「町内会・自治会加入状況」別に見ると、全ての項目で町内会・自治会に「加入している」人の方が「協力したい」と回答する割合が高くなっている。

【図表 19】 災害時に地域で行う活動への協力意向（「協力したい」回答者）
（町内会・自治会加入状況別）



「近所付き合いの有無」別に見ると、全ての項目で近所付き合いが「ある」人の方が「協力したい」と回答する割合が高くなっている。

【図表 20】 災害時に地域で行う活動への協力意向（「協力したい」回答者）
（近所付き合いの有無別）



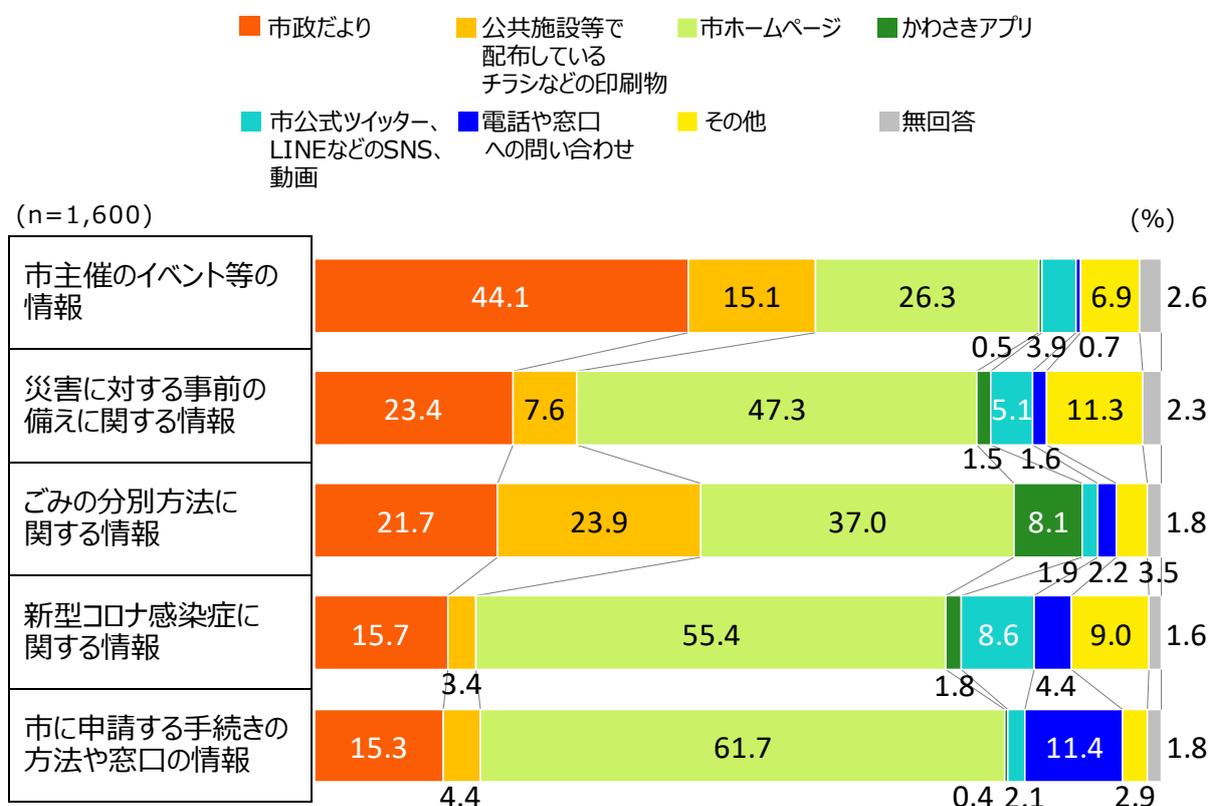
8 川崎市の広報(市政だより)について

1 川崎市の情報の入手方法

問 19. 川崎市の情報を得たいときに、どのような方法で入手していますか(または、入手しようと思いませんか)。それぞれの項目ごとに、最もあてはまる媒体を1つずつ選んでください。

「市主催のイベント等の情報(コンサートや講座など)」は「市政だより」から入手している人が44.1%と最も多いが、その他の項目では「市ホームページ」から入手している人の方が多かった。また、「ごみの分別方法に関する情報」は「公共施設等で配布しているチラシなどの印刷物」が23.9%と他の項目と比較して多く、「新型コロナウイルス感染症に関する情報」と「市に申請する手続きの方法や窓口の情報」では、「市ホームページ」が5割を上回った。

(図表 21) 川崎市の情報の入手方法



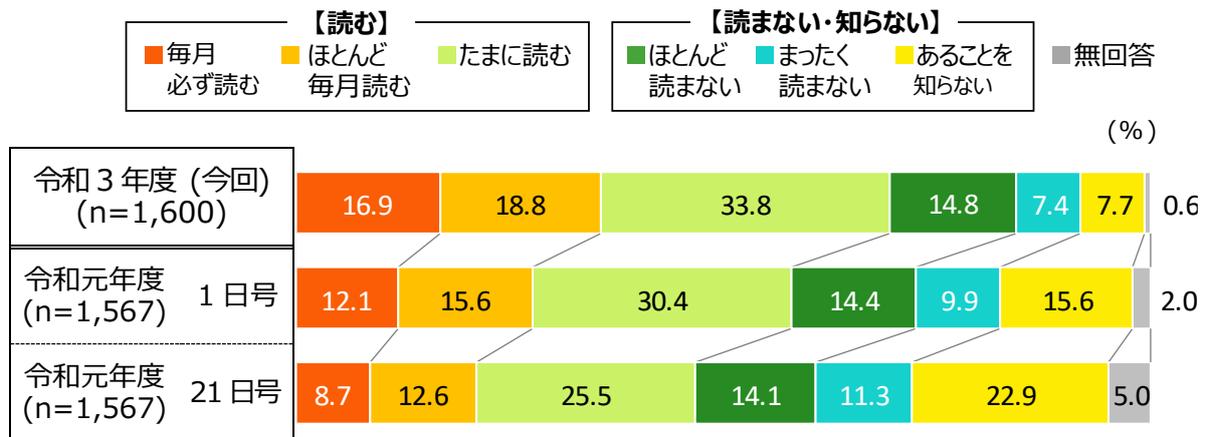
2 市政だよりの閲読状況

問 20. 市政だよりについて、うかがいます。あなたは毎月発行している市政だよりをどれくらいの頻度で読んでいますか。

「たまに読む」(33.8%)が最も多く、「毎月必ず読む」(16.9%)、「ほとんど毎月読む」(18.8%)と合計した【読む】は69.5%であった。

「市政だより」を月2回発行していた令和元年度の調査結果と比較すると、【読む】は令和元年度の「1日号」で58.1%、「21日号」で46.7%であったところ、今回は69.5%と増加した。

【図表 22】 市政だよりの閲読状況（過去調査との比較）

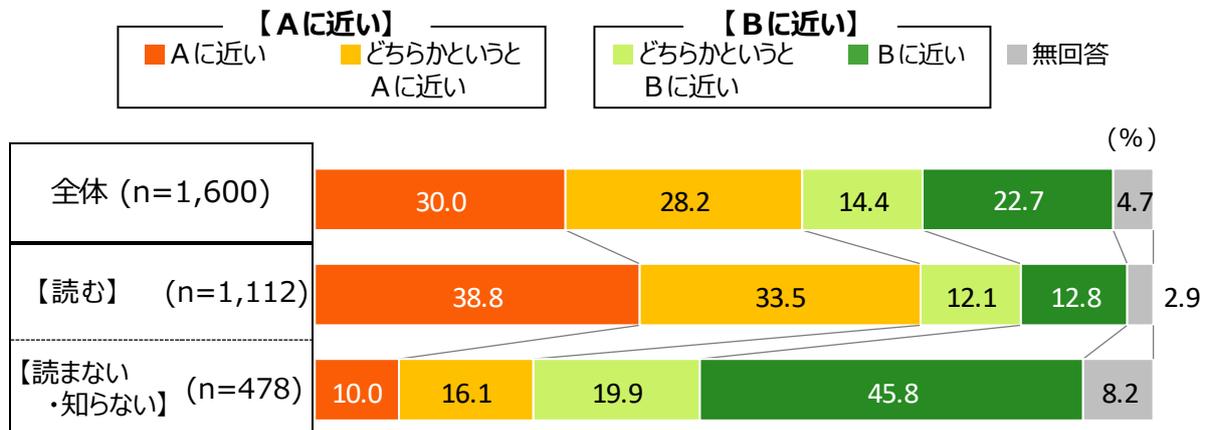


また、閲読状況別に、市政だよりの配布方法についての考え方を見ると、【読む】では「紙で各戸に配布した方がよい」という考えに近い割合が72.2%であるのに対し、【読まない・知らない】では、26.2%となっている。

【図表 23】 「市政だより」についての考え（市政だよりの閲読状況別）

問 22. 市政だよりについて、AとBの考え方でどちらの方があなたのお考えに近いと思われますか。

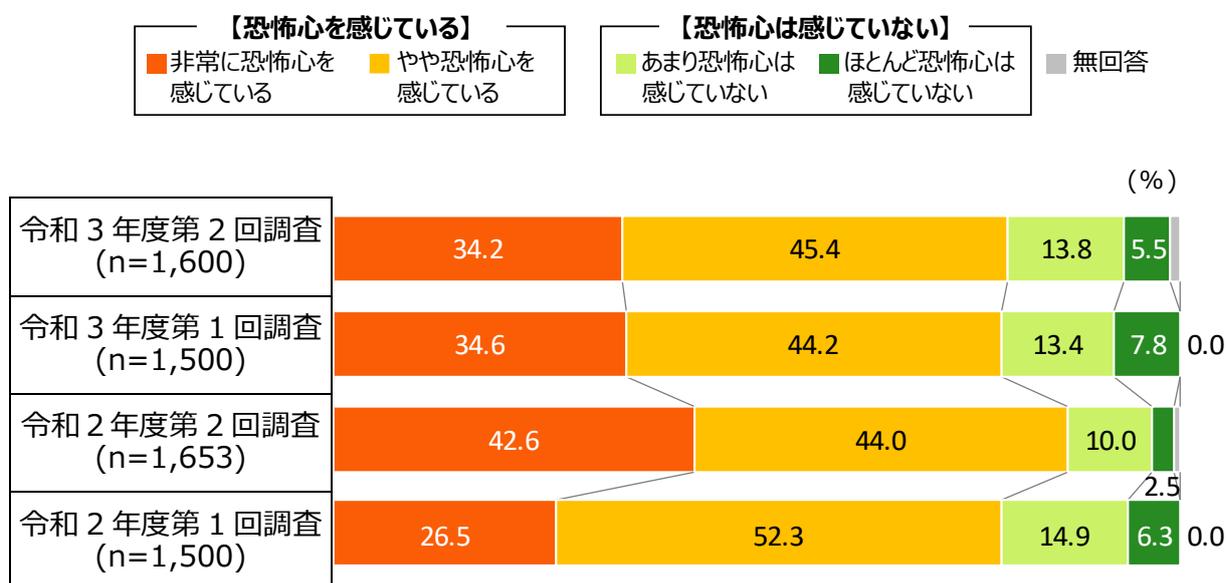
- （ A：配布方法は、紙で各戸に配布した方がよい
B：各戸に配布されなくても、公共施設や駅、ホームページなどで入手できればよい ）



9 新型コロナウイルスへの恐怖心について

新型コロナウイルスへの恐怖心について同じ設問を聴取した過去の調査と比較すると、「非常に恐怖心を感じている」と「やや恐怖心を感じている」を合計した【恐怖心を感じている】は、令和2年11月から12月にかけて実施した令和2年度第2回調査では86.6%であったが、令和2年度第1回調査と令和3年度第1回・第2回調査ではいずれも8割弱となっている。なお、「非常に恐怖心を感じている」については、令和2年度第1回調査（26.5%）と比較し、令和3年度第1回（34.6%）・第2回調査（34.2%）では8ポイント前後高くなっている。

【図表 24】 新型コロナウイルス感染症に感染することに対する恐怖心（過去調査との比較）



【参考】 調査時期における緊急事態宣言の状況について

	調査期間	緊急事態宣言の有無
令和3年度第2回	令和3年11月17日～12月24日	無
令和3年度第1回	令和3年9月3日～9月13日	有(令和3年8月2日～令和3年9月30日)
令和2年度第2回	令和2年11月18日～12月25日	無
令和2年度第1回	令和2年9月4日～9月14日	無

令和3(2021)年度 かわさき市民アンケート概要版
令和4年3月発行

発行 川崎市総務企画局都市政策部企画調整課
〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地
電話 044-200-2148 (直通) FAX 044-200-0401